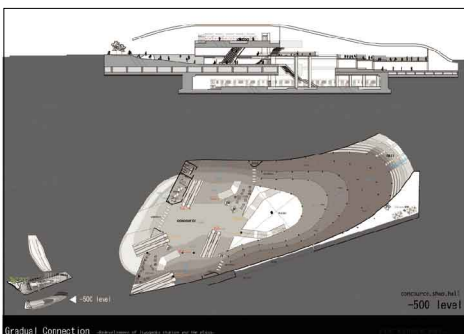
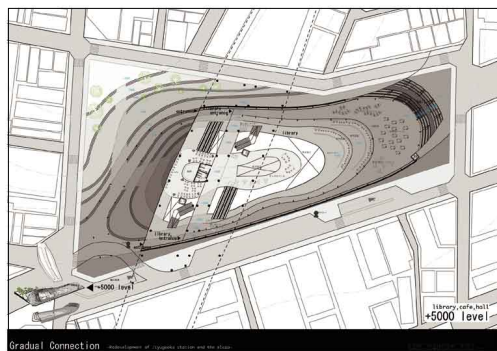


特別
審査員賞

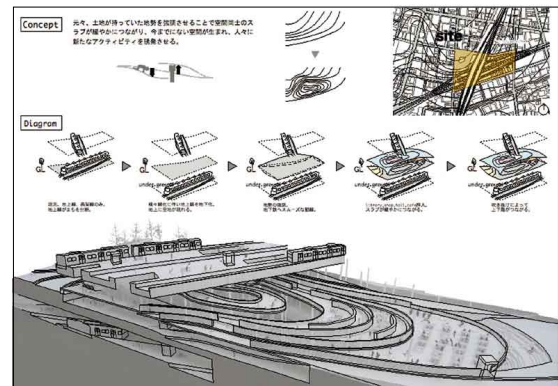


Gradual Connection (グラデュアル コネクション) Redevelopment of Jyugaoka station and the plaza

中野 裕子 (なかの ゆうこ)
千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科



本計画は、新しいパブリック空間として駅に図書館を挿入し、今までにない空間をつくりだす試みである。敷地は現在、地上線の地下化案が出されている自由が丘駅。まず、地下コンコースへのスムーズな動線を得るため、この土地が持っていた傾斜の角度を強め、GLと地下を緩やかにつなげる。この地勢の強調を建物全体に利用することで他機能空間の地面が緩やかなつながりを持ち、空間に一体感を持たせる。さらに、上下の視線のつながりをつくることにより、電車の乗り換え時には、動線が図書館の真ん中を貫通し、図書館を一望するような今までにない空間が生まれる。これらの今までにはなかった空間が人々に新たなアクティビティを誘発させる。



【講評】 交差する2つの鉄道と敷地の高低差が、自由が丘駅周辺を「分断」している。誰もがやむを得ないと思っていた都市構造を鮮やかに解決しようとする力作である。広い視野で地勢を捉え、傾斜角度の操作で空間を生み出し、新しいタイプの図書館を当て嵌めている。もともと大勢が利用する駅に、集客施設でもある現代の図書館が加わることによって、人々の活動をより多様に活発化することを意図している。惜しむらくは、テーマである地勢にとらわれすぎたことか。等高線を描くような書架が、せっかく生み出した公共空間の連続性を妨げるように見えてしまう。実際の動線は巧みに工夫されているものの、「分断」を「連続」に変えるアイデアをもっとストレートに表現できる提案も可能だったのではないかとはいえ、模型制作や構造への取り組み姿勢なども含め、全般にわたって情熱と努力がほとばしる。この作品を地元有力者に提案する価値は十分にある。
(審査員：柳瀬寛夫)